

岐阜県立岐阜各務野高等学校

令和4年度 第3回学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 岐阜各務野高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月3日(金) 13:15~16:15
- 3 開催場所 岐阜各務野高等学校会議室
開催にあたり、委員による3学科合同課題研究等成果発表会の参観を実施した
- 4 参加者

会 長	伊藤 浩	元各務原区長	
副 会 長	苅谷 亜由美	各務原市立鵜沼第二小学校 校長	(欠席)
委 員	清水 宥希	蘇原中学校PTA会長	(欠席)
	高島 邦枝	各務原商工会議所総務事業課 主査	
	寺中 直美	鵜沼西保育所 園長	
	長縄 康浩	フェニックス総合クリニック 副医院長	
	並河 征之	株式会社 日本温浴研究所	
	林 克幸	サン・ビジョンジョイフル各務原施設長	(欠席)
	遠藤 賢児	令和4年度PTA会長	
	蒲 美佳	令和4年度PTA副会長	(欠席)
学 校 側			
	乙津 真由美	校長	
	馬場 聖臣	教頭	
	加藤 覚	教頭	
	五十川 一也	事務長	
	佐々木 善隆	総務部長	
	鈴木 雅雄	教務部長	
	洞口 哲二	生徒支援部長	
	鹿野 知幸	進路支援部長	
	秋田 寛	ビジネス科長	
	後藤 誠司	情報科長	
	小又 友樹	福祉科長	
	新垣 朋洋	記録係	

5 会議の概要(協議事項)

今年度の学校運営について

意見1: これまで生徒は進路について、自分の成績や能力に合わせて入ることができる進路先を見つけていたが、生徒自らが入りたい進路先を見つけ、その目標に向かって歩ませようとする方向性はよい。今後は目標の実現に向けて、具体的にどのような手立てを講じていくのかを明らかにする必要がある。

意見 2 : 3 学科合同課題研究等成果発表会を見て、インターネット等を活用して情報を得るだけでなく、実際に現地に出向き、現地の方と直接会って話を聞いたり、情報を得たりすることに力を入れるべきである。このような学習活動を通して、将来は地元に戻って活躍したいと願う人材育成をめざしてほしい。

意見 3 : 3 学科合同課題研究等発表会ではそれぞれのグループが地震を取り上げ、「ビジネス」「情報」「福祉」という異なる視点から課題を追求していたことは、学科の枠を越えた学びになっていた。来年度は、学習の導入部分をさらに工夫することで、生徒の学習意欲を高めたり、自らが学習テーマを選択したりするなど、生徒が主体となる学習活動につなげるとよい。

意見 4 : 「心のアンケート」や「いじめに関するアンケート」についてメールだけでなく、個別に聞き取りを行っていることは大切である。教師と生徒が対面し、生徒の思いを共感的に受け止める姿勢をもち続けるなど、きめ細かな指導を継続するべきである。

意見 5 : 情報科では「世界エイズデーポスターコンクール 最優秀賞」「情報モラル・セキュリティコンクール 4 コマ漫画部門優秀賞、ポスター部門優秀賞」など、様々なコンクールで大変優秀な成績を収めている。これまでの情報科の学びを生徒が発揮した成果であり、賞を受賞することは、自己のこれまでの歩みに自信をもたせることにつながるものである。現在、自己肯定感の低さが問題視されているが、様々な取組において、生徒に自信をもたせ、自己肯定感を高めることができる教育活動を進めてほしい。

意見 6 : 今回の発表は、オンライン配信に関わるパソコンの操作や放送機器の操作など、生徒が会の運営にも携わっており、ICT機器の活用能力の高さが見られた。また、発表者はパワーポイントを使って、一画面に対して適度な情報量で、色合いなど視覚的効果の高いプレゼンテーションを行っていた。中でも動画を用いたプレゼンテーションは新たな手法であり、今後も創意工夫のある発表を行ってほしい。

6 会議のまとめ

今回、3 学科合同課題研究等成果発表会を委員の方に参観していただいた。生徒が主体となって会の運営をしたり、研究内容を発表したりするなど、生徒が活躍する場面を見ることができ、委員の方には大変好評であった。

協議会の中では、今年度の学校運営に関わる取組についての成果や課題、来年度の方針等を各担当者から報告したうえで、委員の方には、本校の取組に関わって、より一層地域へ発信していくことや、地域との関わりをさらに深めていくことを通して、将来地元で活躍する生徒の育成に力を注いでいくことについてご意見をいただいた。

今後は、地域の期待に応え、地域とともに歩む学校として、地域との連携を一層強化し、地域や地域の企業、中学校に向けて、本校の魅力や生徒の学びのようす等を発信していきたいと考えている。